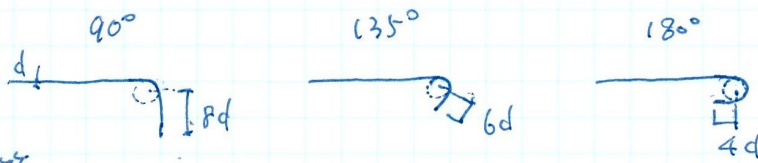
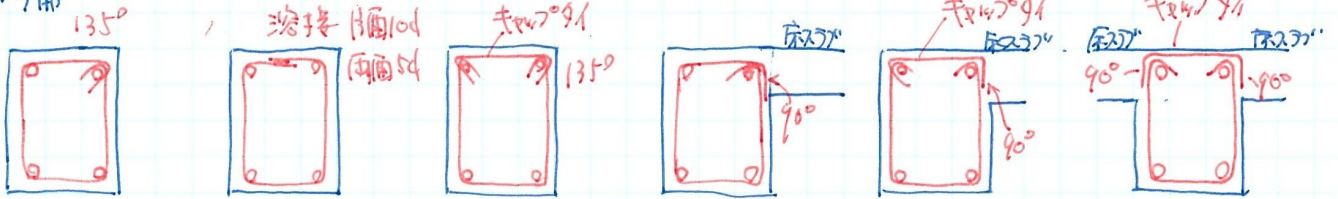


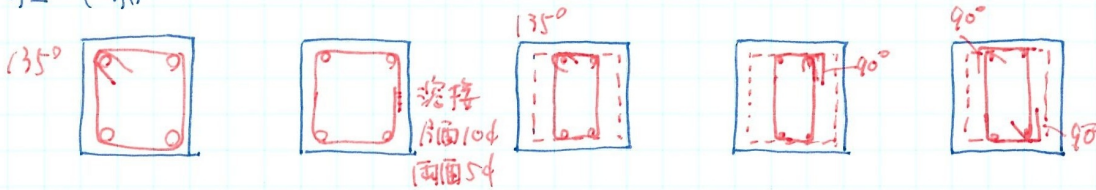
7/17



梁筋の筋



柱帯筋



配筋量

梁柱 せん断補強筋比 (せん断耐力を以ての伸張正応力)  $0.2\%$ 以上 (含7条 4号)

柱梁接合部  $0.2\%$ 以上

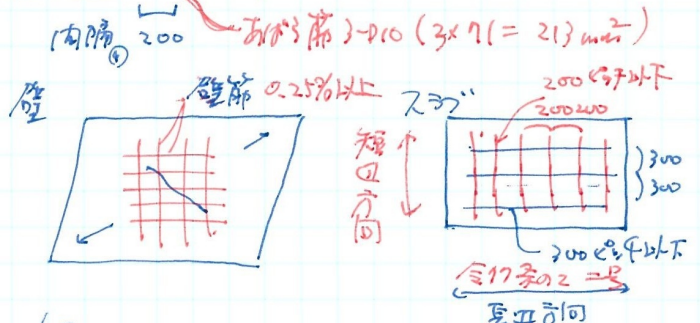
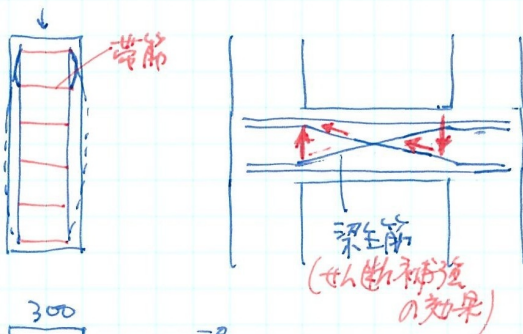
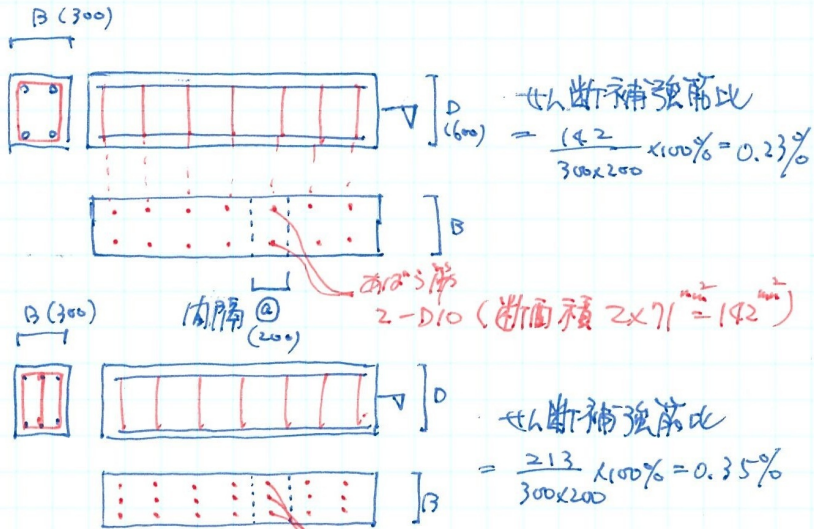
基礎付柱  $0.3\%$ 以上

せん断補強筋比  $= \frac{42}{300 \times 200} \times 100\% = 0.23\%$

150mm以下  
柱の帯筋間隔の1.5倍以下

筋の許容応力度 (含90条 表2)  
長期許容応力度

SD 29.5  $19.5 \text{ N/mm}^2$   
SD 34.5  $19.5 \text{ N/mm}^2$



梁 引張鉄筋比 (Pt)

引張鉄筋 3-D22 ( $3 \times 387 \text{ mm}^2 = 1161 \text{ mm}^2$ )

$Pt = \frac{1161}{300 \times 540} \times 100 = 0.71\%$

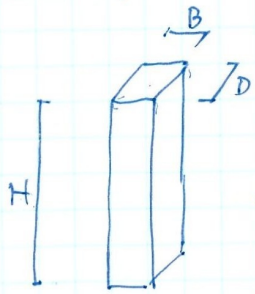
柱 鉄筋比 4本以上 (0.8%以上) 含7条 大

全主筋 5-D22 ( $5 \times 387 = 1935 \text{ mm}^2$ )

鉄筋比  $= \frac{3086}{600 \times 600} \times 100 = 0.86\%$

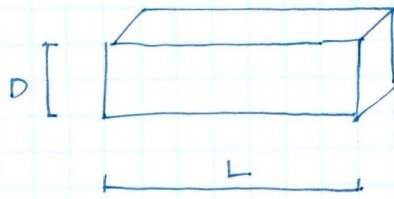
部材寸法

柱の小径の支点間距離に  
対する



$\frac{B}{H}, \frac{D}{H} \geq \frac{1}{15}$   
細いと径屈折  
令 77条 1項 5号

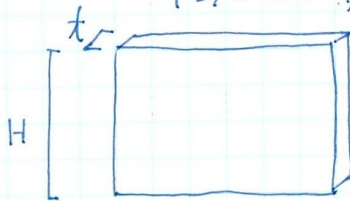
梁せいは有効長Lの%に超える長



$\frac{D}{L} > \frac{1}{10}$   
令 82条 4号  
告示 621号

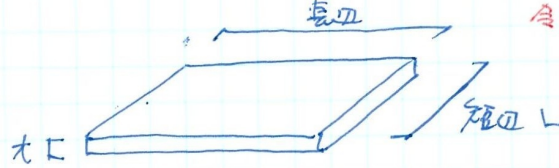
耐力壁の厚さ

令 78条 の 2-号  
 $t \geq 200\text{mm}$  か  $t \geq H/30$



床スラッグの厚さ

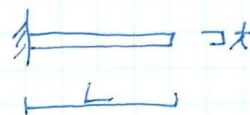
$t \geq 80\text{mm}$  か  $t \geq \frac{\sqrt{2}L}{40}$   
令 77条 の 2 項 1-号



$t \geq \frac{\sqrt{2}L}{30}$   
令 82条 4号  
告示 621号

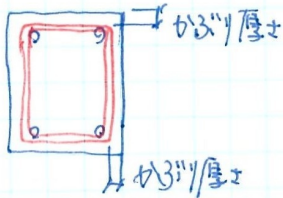
片持ちスラッグの厚さ

$t \geq 80\text{mm}$  か  $t \geq \frac{L}{10}$   
令 82条 4号  
告示 621号



かぶり厚さ

鉄筋に対する耐火被覆、防錆、伝達力の確保



土に接していない部分	スラッグ、非耐力壁 不圧梁-耐力壁 (コンクリート鉄筋コンクリートの場合 20mm)	令 79条 最小かぶり厚さ 20mm 以上 30mm
土に接する部分	柱-梁-スラッグ壁 布基礎の上 基礎・擁壁	40mm 60mm

設計かぶり厚さ = 最小かぶり厚さ + 10mm